



三重県ドクターヘリ ～運航開始10周年を迎えて～

三重県知事 一見 勝之

三重県ドクターヘリは、平成24年2月の運航開始から令和4年2月で丸10年を迎えます。総出動件数は3,304件(令和3年12月末現在)にのぼり、これまで多くの県民の皆様を救ってきました。

ドクターヘリは、県内各地へ概ね38分以内に到着することが可能です。このため、より高度で専門的な医療機関に短時間で搬送することができますとともに、医療スタッフをいち早く救急現場へ送り込み、治療を開始することができます。南北に長い地形を有し、離島や山間部などが多く存在する三重県において、ドクターヘリは救命率の向上および後遺症の軽減等に多大な貢献をしてきました。

本県では、およそ1日1件のフライトがありますが、幸いにもこれまで重大な航空事故は発生していません。これもひとえに、関係機関の皆様のご尽力のおかげであり、基地病院である三重大学医学部附属病院、伊勢赤十字病院をはじめとする医療従事者の皆様、消防機関の皆様、運航会社等の関係機関の皆様にあらためて感謝申し上げます。

この10年間で臨時離着陸場(ランデブーポイント)は増加し、他県との広域連携体制を構築するなど、ドクターヘリの運航体制が強化され、今や三重県の救急医療になくてはならない存在となっています。

今後も、県民の皆様の命を守る救急医療体制の充実に向けて、関係機関の皆様と協力し三重県ドクターヘリの安全かつ円滑で効果的な推進に努めていきます。



三重県ドクターヘリのあゆみ

- H15.1 三重県・奈良県・和歌山県で共同利用を開始
- H24.2 三重県ドクターヘリ運航開始
- H28.4 奈良県と共同利用、和歌山県と相互応援を開始
- H31.1 三重県・奈良県・和歌山県で相互応援を開始
- R2.3 中部ブロック8県で「大規模災害時におけるドクターヘリ広域連携に関する基本協定」を締結
- R4.2 三重県ドクターヘリ運航10周年



三重大学病院

MIE UNIVERSITY HOSPITAL



三重大学医学部附属病院
救命救急センター センター長・教授

今井 寛



三重県ドクターヘリは当病院と伊勢赤十字病院を基地病院として、平成24年2月に運航が始まりました。県内各地におおむね38分以内に到着することのできるドクターヘリは複雑な地形や医療偏在に阻まれている地域をカバーすることが可能となりました。

ドクターヘリというのは、どこへでも迅速に飛んで行けることから、救急医療ばかりでなく地域医療という観点も考えあわせると大変良いツールであると考えます。

今後さらなる救命に向けて県全体で医療を支える大きな力ですので県民の皆様には御理解御協力お願いいたします。

ドクターヘリ活動キロク

● F1レースにヘリコプター救急は必須

鈴鹿サーキットで開催される「バイクの8時間耐久レース」「夏の1000キロGT選手権」「F1レース」これらのレースが行われるときはドクターヘリがサーキットに常時待機します。レース中の事故はバイクが多く、その場ですぐに対応しないと命にかかわるケースが多いためです。



鈴鹿サーキットのヘリポート

● 人口過疎の地域こそドクターヘリが必要

三重県は南北に細長く、また離島もあるため医療資源の不足が大きな問題となっています。実際、人口の少ないところにヘリコプターは贅沢だという話もありますが、本当は逆に人口過疎の地域こそドクターヘリが必要であると考えます。今や地域医療の充実には必要不可欠となっています。



山奥にも迅速に駆けつけます



多少の雪であっても運航可能です



時には学校のグラウンドに降り立ちます



日本赤十字社 伊勢赤十字病院



伊勢赤十字病院
救命救急センター センター長
災害医療部長
説田守道

- 当院では、12月に病院まつり(ゆずりは祭)を開催し、地域の方々への感謝の気持ちを込めてドクターヘリ見学会を行っています。見学会を通じて将来フライトスタッフを目指す人が増えることを願っています。



- 当院では三重県南部からの出動要請、受入れが多いです。外傷では交通事故よりも高所墜落や農業機械による事故が多く、心筋梗塞、大動脈解離、脳卒中などの内因性疾患が多いことが特徴です。ドクターヘリによる迅速な搬送と適切な治療を受けて社会復帰できた人も増えてきています。
- なお市街地の飛行時には騒音により迷惑をおかけしますが、急性期疾患には1分でも早い搬送が必要です。どうかご理解をお願いいたします。



- 当院は1904年(明治37年)に創立され、2012年(平成24年)1月からは現在地に移転し“伊勢赤十字病院”となりました。同時にドクターヘリ基地病院となり2021年12月までに要請約2,300回、出動1,780回、1,800人の患者受入れがありました。
- 屋上ヘリポートからER、画像診断室、ICUに至る動線でセキュリティ確保と、感染対策は万全です。十分な発電設備、給油施設により災害に強い体制を整えています。



患者さんの声

2012年3月、 まだドクターヘリ運航開始から一か月の出来事でした

- 15:21 漁船が別の漁船に乗り上げ 海に転落する事故が発生
 - 周囲の人が海から引き揚げ119番通報
 - 15:31 救急車が到着
 - 救急隊が即座にドクターヘリを呼ぶ症例と判断
 - 15:38 消防からドクターヘリ要請の連絡を受け離陸
 - フライト中にランデブーポイントと呼ばれる救急車とドクターヘリが合流する場所の選定を行います
 - 15:55 ドクターヘリがランデブーポイントに着陸
 - ドクターヘリに同乗してきた医師がその場で診療を行います
 - 三重大学病院救命救急センターへの収容が決定
 - 16:11 ドクターヘリ離陸 収容先の三重大学病院へ向かいます
 - ドクターヘリの中で呼吸管理などさまざまな医療行為を行います
 - 16:26 三重大学病院へ着陸
- 事故発生から約1時間で
50km離れた地から集中治療室へ搬送することができました



同型の事故漁船（傷病者側）



三重県



今回の事例でランデブーポイントとなった南島メディカルセンター



＝ いくつもの分岐点を乗り越え、社会復帰へ！ ＝

ドクターヘリがなかったら、
ここにいなかった…。
ほんとに感謝、感謝です。



奇跡が起きたと思っています。
ドクターヘリが始まったばかりだったので、
思い入れが深く、
お顔を見るたびに元気をもらっています。



のちに元気なお姿で取材を受けていただきました。
現在は伊勢海老漁は引退するも真珠養殖の指導をしていると語っていました。

HEM-Netクラブ2017年 冬 42号より抜粋
※発表に際して本人に文書同意済み



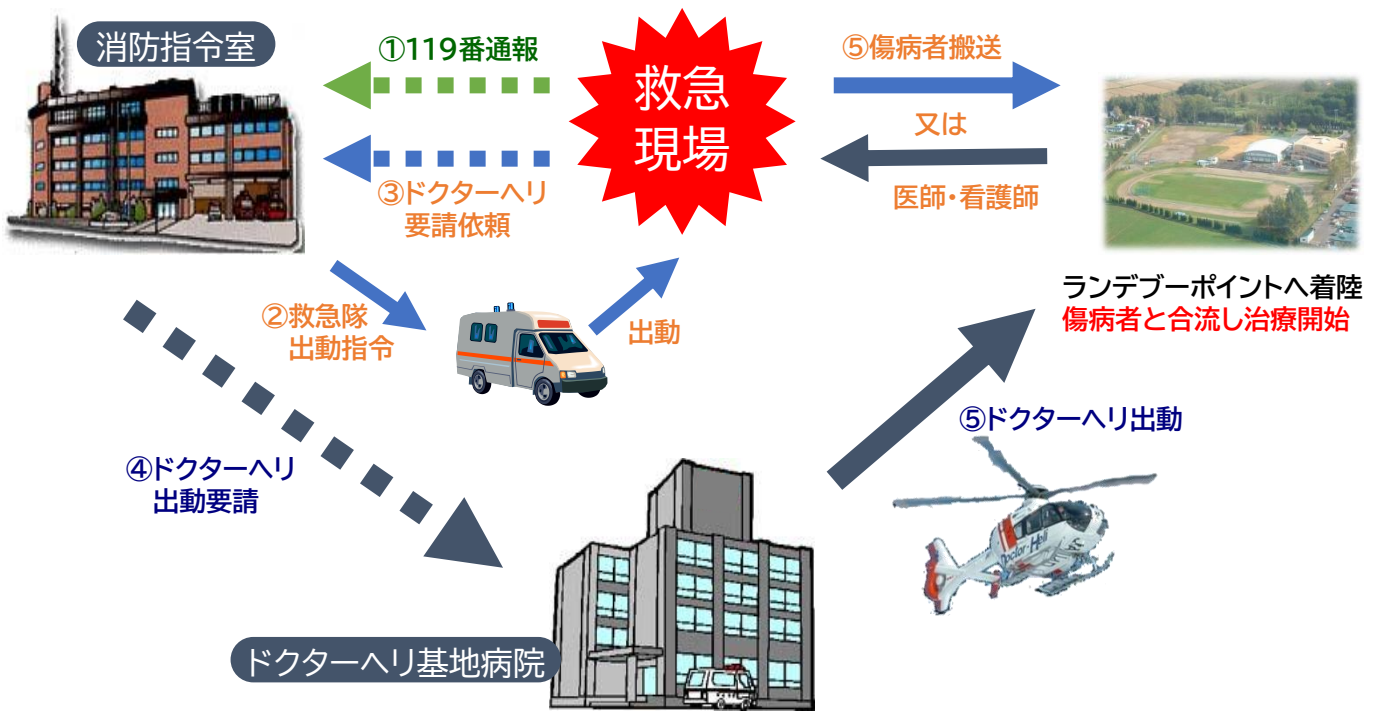
三重県ドクターヘリ

ドクターヘリとは？

ドクターヘリは、救急医療用の医療機器などが装備され、救急医療の専門医や看護師が同乗し、救急現場などから医療機関に搬送するまでの間、患者に救命医療を行うことのできる専用のヘリコプターをいいます。



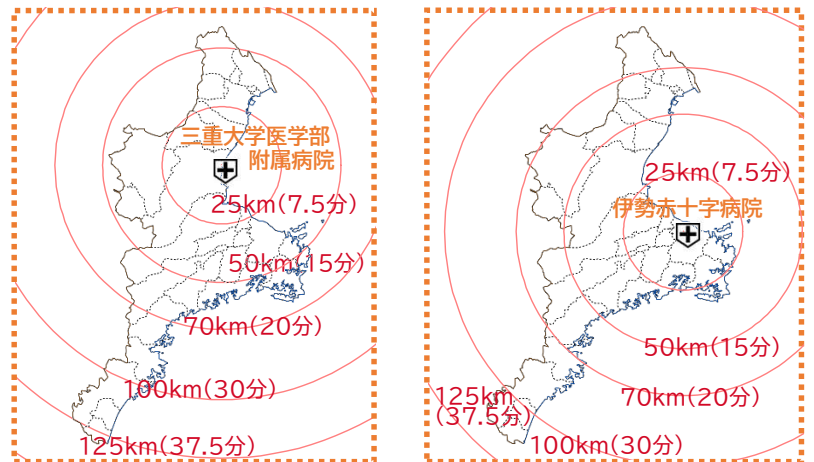
三重県ドクターヘリ運航開始式(平成24年1月)



ドクターヘリの運航

重篤患者の救命率の向上や後遺症の軽減を図るため、三重県では、平成24年2月からドクターヘリの運航を開始しました。

三重大学医学部附属病院と伊勢赤十字病院の2病院を基地病院として運航しています。



県内各地へ概ね
35分以内に
到着できます！

月	4・5	6・7	8・9	10・11	12・1	2・3
三重大学医学部附属病院		◎		◎		◎
伊勢赤十字病院	◎		◎		◎	

(◎:当番月)

活動実績



事後検証会(令和3年12月)



神島での訓練(平成25年4月)

安全運航のための取組

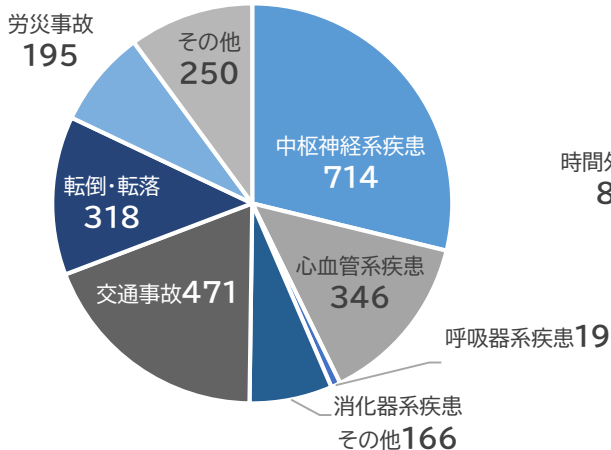
- ドクターヘリの安全運航のため、三重県ドクターヘリ運航調整委員会の下に安全管理部会を設置し、ドクターヘリの安全管理方策等を検討しています。
- 毎月、事後検証会を開催し、基地病院および消防機関等の関係機関と実際の症例を基に意見交換することで、ドクターヘリによる救急搬送の適正化、円滑化を図っています。今般のコロナ禍においては、オンラインにて実施しています。
- 関係機関と連携して、高速道路や離島などで訓練を実施し、円滑な運航体制の強化を図っています。

運航実績

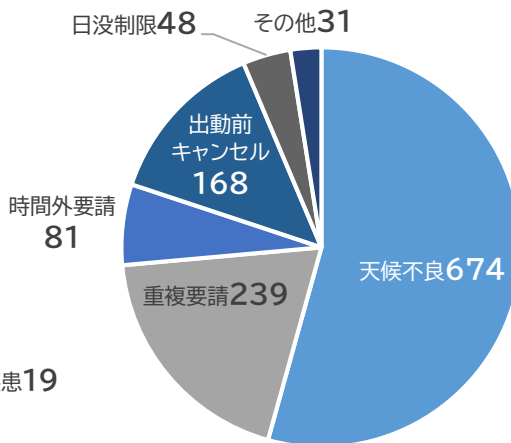
※令和3年度は12月末現在の件数 (単位:件)

区分	年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元 (H31)	R2	R3 (※)	合計
現場出動		9	162	236	287	331	296	290	235	230	183	191	2,450
施設間搬送		10	110	116	91	92	99	96	85	73	55	27	854
キャンセル		0	11	18	30	45	26	40	37	16	18	10	251
出動不能		3	67	83	133	98	156	135	148	153	137	128	1,241
要請 (合計)		22	350	453	541	566	577	561	505	472	393	356	4,796

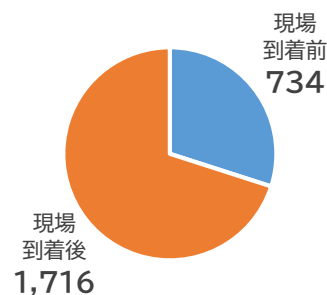
疾患分類(現場出動)



出動不能の内訳



消防機関による要請のタイミング(現場出動)



(平成24年2月から令和3年12月末までの件数)

広域連携

他県ドクターヘリとの相互応援

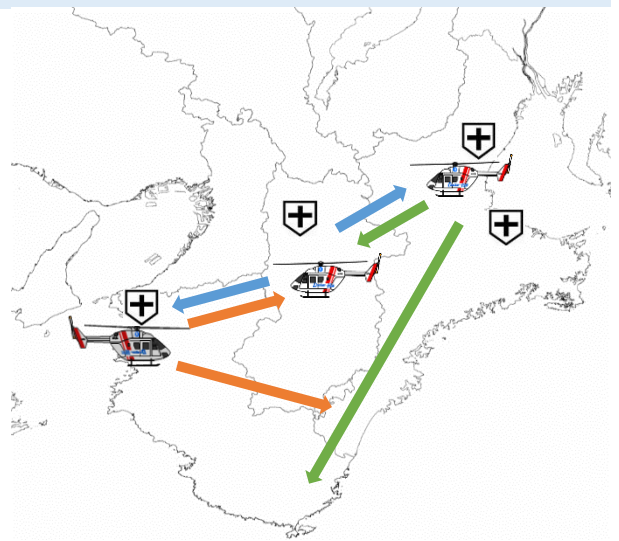
平成30年12月に「三重県・奈良県・和歌山県ドクターヘリ相互応援に係る基本協定」を締結し、平成31年1月から協定に基づく相互応援を開始しています。三重県ドクターヘリへの要請が重複し、出動ができない場合には、他県ドクターヘリの応援を要請することができる広域連携体制を構築しています。

また、相互応援協定による運航を安全かつ円滑に実施するため、三県の基地病院、運行会社、行政の担当者による三県フライトスタッフ会議を開催しています。

奈良県・和歌山県への出動実績

(単位:件)

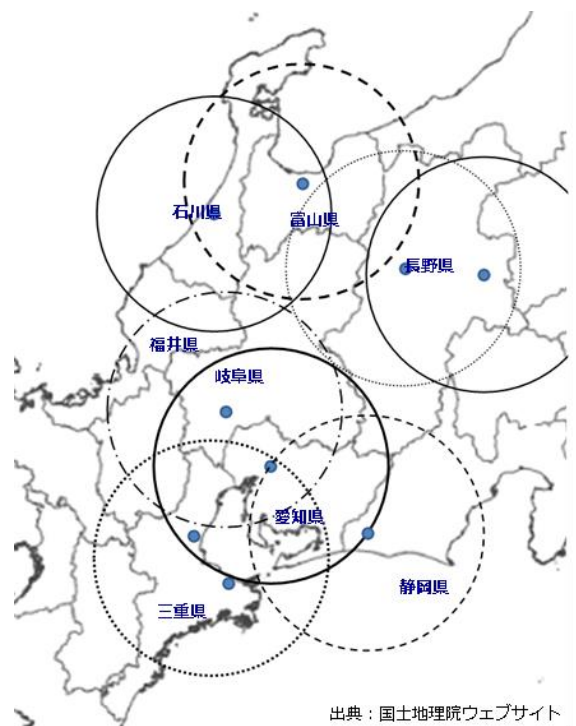
年度	H28	H29	H30	R元 (H31)	R2
奈良県	6	2	3	2	1
和歌山県	0	3	4	1	1
合計	6	5	7	3	2



大規模災害時の運用体制

大規模災害時にドクターヘリが迅速かつ効果的に活動できるよう、令和2年3月に「大規模災害時におけるドクターヘリ広域連携に関する基本協定」を締結しました。

中部ブロック	静岡県、愛知県、三重県、長野県、富山県、石川県、福井県、岐阜県
対象規模	被災県外からの医療支援が必要な規模の災害(南海トラフ地震、首都直下地震等の大規模災害を想定)
出動内容	①被災県へのドクターヘリ派遣 ②被災県への派遣によりドクターヘリが不在となった県に対し、近接県のドクターヘリによる支援
その他	中部ブロック外で大規模災害が発生した場合、本協定の例により応援活動を実施



出典：国土地理院ウェブサイト

消防機関の活動

志摩市消防本部

●消防本部の紹介

志摩市と南伊勢町南勢地区の1市1町で構成され、管内人口は54,995人で、管内の8割が伊勢志摩国立公園に指定されています。また、渡鹿野島及び間崎島は有人離島となっています。



●活動内容

ドクターヘリと救急車の合流地点である臨時離着陸場(ランデブーポイント)での離着陸時の安全管理を実施します。強風による砂塵の飛散防止、付近住民への広報等を「安全・確実・迅速」に徹底し活動しています。

三重紀北消防組合消防本部

●消防本部の紹介

尾鷲市、紀北町(人口:32,203人 *令和3年4月1日現在)を管轄。尾鷲、海山、紀伊長島の3消防署、及び輪内出張所にて事案に対応しています。

令和2年は、救急出動件数2,044件のうち、36件がドクターヘリで救命救急センターへの搬送となりました。



●活動内容

当本部は、管内に救命救急センターがなく、緊急度、重症度ともに高い傷病者を、救急車で救命救急センターまで搬送するには距離が長く、時間がかかってしまうため、ドクターヘリの運用は地域住民にとって大いに有益であるといえるでしょう。

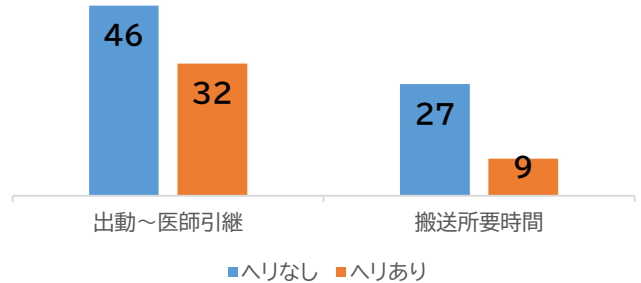
効果と課題

三重県ドクターヘリは、これまで3,304件(令和3年12月末現在)の活動を行い、多くの県民の皆様の命を救ってきました。

ドクターヘリは、10km以遠の患者に対して救急車よりも早期に医療介入が可能であり、救急隊到着前要請では、さらに10分短縮されるとの調査結果があります。早期医療介入には重症外傷などの転帰改善が期待できます。(※)

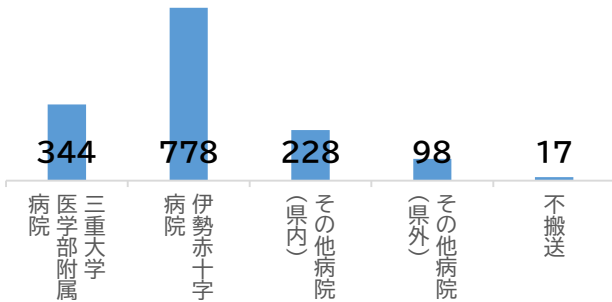
右図は、令和2年度の志摩市消防本部管内におけるドクターヘリと救急車との搬送時間の比較です。ドクターヘリ使用時の時間短縮効果が確認できます。

ドクターヘリ使用時の時間短縮効果



(出典:志摩市消防本部、単位:分)

医療機関別受入状況



(平成29年4月から令和3年12月末までの件数)

ドクターヘリによって、遠方の重症急性疾患を高度医療機関に集約化し、早期に根本的治療を提供することが可能であり、急性冠症候群や脳梗塞などの転帰改善が期待できます。(※)

三重県ドクターヘリの主な搬送先は、左図のとおり、救命救急センターを有する三重大学医学部附属病院と伊勢赤十字病院となっています。

一方、三重県は、他県と比較しても天候不良率が高く、応需率がやや低くなっています。こうしたことに対応するため、他県ドクターヘリとの連携や三重県防災ヘリとの連携を進めています。また、ドクターヘリの運航費用は3.6億円にのぼり、そのうち2.5億円を補助金で賄っています。

これからも三重県ドクターヘリの安全かつ円滑で効果的な推進に努めていく必要があります。



防災ヘリ訓練(令和3年4月)

※日本航空医療学会「ドクターヘリ症例データ収集調査分析事業」報告書より

県民の皆様へ

ドクターヘリの運航にご理解・ご協力をお願いします

※騒音にご理解ください

ヘリコプターが離着陸する際は、プロペラの回転による強い吹き下ろしの風や騒音が発生しますので、ご理解をお願いします。

また、消防職員の指示に従い、離着陸場から離れるなどのご協力をお願いします。

※県民の方が直接要請することはできません

ドクターヘリは、悪天候の場合などを除いて毎日昼間に、消防機関からの要請により出動し、予め設定した臨時離着陸場等に着陸して、患者を搬送してきた救急車と合流します。

現在、三重県の臨時離着陸場は、小・中学校の運動場や公園など、643ヶ所となっています。

※ドクターヘリの出動に伴う費用負担はありません

ドクターヘリについて、搬送にかかる費用を負担いただくことはありません。

ただし、ドクターヘリ要請に伴う医療行為に係る費用は、通常の診療と同様に患者の方の負担となります。



救急車は適正に利用しましょう

症状が軽い場合には、かかりつけ医や休日夜間応急診療所などに連絡してください。

みえ子ども医療ダイヤル

8000

または Tel 059-232-9955

(毎日19:30～翌朝8:00)

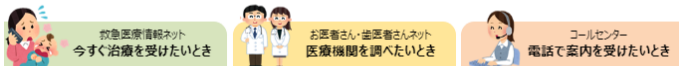
子どもの病気、薬、事故などに関して、医療関係の専門相談員が電話相談に応じます。

「医療ネットみえ」で検索

<https://www.qq.pref.mie.lg.jp/>



年末年始期間【令和3年12月29日(水)～令和4年1月3日(月)】における県内医療機関の診療・休診情報を公開しています。



救急車を呼ぶほどではないが、どうしてもすぐ治療を受けたいときに対応可能な医療機関(病院・診療所・歯科)をリアルタイムで表示しています。夜間・休日などは、まずこちらでさがしてください。



三重県救急医療情報センター コールセンター

Tel 059-229-1199

受診可能な医療機関を24時間365日ご案内しています。

